

農業経営の視察に タイ国の青年が来村

タイ国政府から派遣されたウイチャイ・ウオハンディさん(三十二歳)がこの程村を訪れ、農協のしくみや、農家経営の実態などについて視察しました。

とくに機械化の進展と、用排水路の整備状況には、目を見張り、信じられないといった様子で、どうしてこんな機械化になったのですか、牛や馬を使って作業している農家を教えてください、など、返答にこまる質問に納得した、北野の樋口多録さん、堀越正木さんは、何とか理解してもらおうと説明に汗かくでした。

▲樋口多録さん宅を訪れ話を聞くウイチャイ・ウオハンディさん



成人式

おめでとう新成人

献血にも協力してさわやか一二八名

村の成人式が八月十五日、公民館で新成人一二八名が出席して行われました。

式典前に久しぶりの対面をなつかしんだり、談笑する輪がいくつもできる、いつもながらの光景に加えて、今年には、成人式の記念にと会場入口に到着していた移動採血車「ゆうあい号」で自主的に献血する新成人の姿もみられるなど、この日の意義をかみしめ、大人の仲間入りを喜び合っていました。

▲献血に協力する新成人

村の話

大成功 ボクたちの手づくり運動会

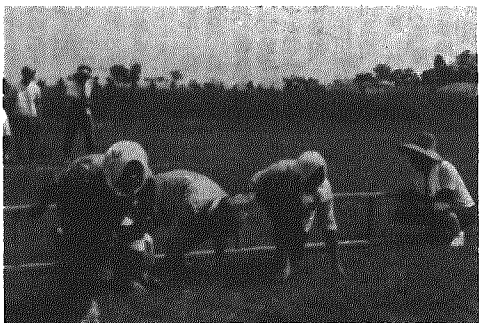
～油島子ども会～

年に一度くらいは、部落みんなでお楽しみ活動しよう、油島子ども会では、この程、部落ぐるみのミニ運動会をしました。

種目の選定やら大会の運営はすべて子どもたちが中心になって進め、孫たちといっしょに走ったり、風船割りをしたりして、親子孫一体となりました。楽しいひとときをすごしました。

この子ども会の活動を指導している阿部マサ子さんは「こんな活動を通してふれあいとか、思いやりとかが育まれてくるのではないでしょうか」と話し、子どもたちの企画に感心していました。

▲楽しそうですね



秋の味覚ブドウ(キャンベル)の出荷最盛期



通称夏井山のブドウ団地では、今キャンベルフリー種の収穫が盛りです。

ときおり、害鳥よけの空砲が響くなか、ここ遠藤福太郎さん宅でも朝早くから収穫作業に追われています。

一足早く収穫の終わったテラウニア1のできがあまりよくなかったために、このキャンベル種に期待しているようです。

「種刈りといっしょになるため、毎日が大変ですよ」と話す遠藤さんですが思いのほか、糖度、品質もいいとあって、忙しさも苦にならないといった表情でした。

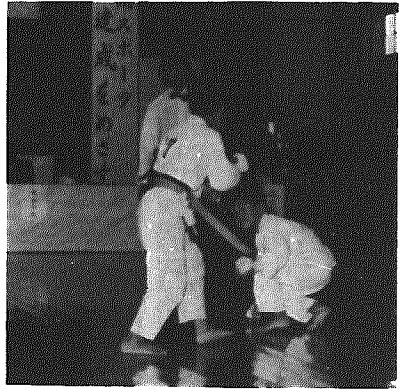
このブドウの収穫作業、今月二十日頃まで続けられています。

▲忙がしくて大変ですと遠藤さん

参加しませんか 第5回村民体育祭

村民総スポーツ

達成をめざして



▲昨年の空手道大会の模様

- 主催 体育協会、公民館
- 期日 10月5日、10日、12日
- 場所 村民体育館他
- 参加資格 村内に在住、在勤する人
- 種目 野球、テニス、銃剣道、剣道、空手道、卓球、バレーボール

※ 野球の申し込みは9月13日(土)までに公民館へ(厳守) 抽せんにつきましては後日連絡致します。

○表彰 各種目とも3位まで表彰し、参加者全員に参加賞を贈ります。

○細部につきましては、後日、チラシを配付します。

「感激テレビ」

家庭でできる視聴覚教育④

岩室小学校教頭 笠原 誠

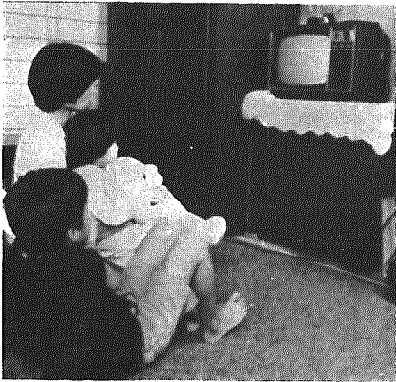
映画は感激するが、テレビは感激が薄いとよくいわれます。テレビは映画にくらべて画面が小さいことが原因の一つです。

もう一つの理由は、まわりが明るくて、お互いの顔がよく見えるからです。家族の前で涙を見せるのは、テレビの画面が小さいので、涙を流さないうるがまんをします。

感情にブレーキをかけること、ただし、真暗な部屋です。ですから、感激が薄くなるので、プラウン管だけが光っているのは、目に悪いので、テレビの画面の小さいのは、テレビを買い替えない限り大きくなるはず、買い替えても大きさに限りがあります。画面の大きさはあきらめて、明るさにはあきらめて、見ることに工夫をしましょう。

感動的なドラマのある晩は、家族で申し合わせて、部屋の電気を消し、暗くし、

ドラマが終るまで話をしないこと、ドラマが終った後、涙をふくあいだ、三分は電気を消さないこと



などを約束して見ると、一層安定したテレビ観賞ができます。

ドラマが終った後、引きつづきニュースなど見ない



母と子の会話

言葉は、幼児期から正しくはつきりと覚えさせて、きちんとした日本語を身につけさせるようにしましょう。

テレビなどの発達で、子どもは自然に言葉を覚える機会が多くなり、耳から入るいろいろな言葉

をどんどん吸収していきま

す。しかし、お母さんとの会話を通して、子どもは、どんなときにも、どの言葉を使うかという、その場の状況や感情と一体となった実のある表現を体得していきま

す。

ですから、子どもは、まずお母さんを通して、さらにお父さんとお母さんのやりとりを聞きながら言葉を身につけていきます。

一見、聞いていなき

そうにみえても、子ども

言葉のしつけ

身近な手本は家庭から

親同士の間にも、親の会話を聞きながら、自分なりの解釈で覚えていくことが多いのです。

子どもたちのママと遊びは、たいがいがお父さんとお母さん、そして子どもの役と、ふだんの家庭での会話を中心になっていきます。

親同士の間に気ない会話も子どもへの影響を考えると、それなりの配慮をすることが大切です。

また、言葉には、それだけの感情・心が伴います。「ありがとう」というときは、それにふさわしい態度、しぐさがあるはずですから。心から相手に感謝する心が働かなければ、「ありがとう」といふ言葉も生きてきません。

子どもにとっては、お母さんの言葉遣い、そして家庭での会話で、言葉を学習するうえでの身近なお手本といえるでしょう。